

入学時の目標と今のわたし

中部学院大学短期大学部

ラナシンガアラチゲ アウシャデラシュミ

2022年度文部科学省学習奨励費受給者

来日前、私は日本で様々な経験をしようと思っていました。大学での勉強はもちろん、日本各地を旅行したり、多くの人と交流してたくさんのことを吸収したいと考えていました。もちろん簡単なことではないともわかっています。しかし、若い時はチャレンジしてみたいと思っていました。

現在、短期大学部に入学して2年が過ぎました。来日前に考えていたことは達成できたこともあれば、できなかったこともあります。達成できたことの一つは、日本語力が向上したことです。日本に来て日本人の中で毎日生活することで、日本語で話す力と書く力は伸びたと思います。入学後、友達もできるようになり、楽しい大学生活を送るようになりました。

日本に来て驚いたのは、日本の学生は、ほぼアルバイトの経験があり、学校の生活とアルバイトを両立させていることです。ですので、私も今、勉強とアルバイトを両立させて、毎日がんばっています。

在学中は、コロナの感染拡大という状況だったので、会いたい人に会えないことや旅行に行くことなど自由に動くことは難しかったです。また、飲食店や商業施設を気軽に利用できなくなったり、オンラインで授業を受けなければいけない時もありました。中でも、わたしに影響を及ぼしできなくなったことと言えば、人とのかかわりだったと思います。マスク越しの日本語での会話も大変でした。この思いもしなかった苦労は、自分と同じ国の出身の友人と過ごすことで気分転換したり情報収集をして乗り越えました。

コロナウイルスが流行する前は自由に出かけられましたが、今はまだまだ気をつけて行動しなければいけません。しかし、せっかく日本にいるのだから、この機会を生かさないといけないと今は思っています。積極的になることで、交友関係を広げ、多くの経験をしていきたいと考えています。

日本で暮らし、日本で学び

中部学院大学人間福祉学部

オウ テンショウ

2022年度文部科学省学習奨励費受給者

「白駒の隙を過ぐるが如し」

コロナ禍の影響で、私の大学一年生の授業はすべてオンラインより中国で受けました。一年生の終わる頃によく日本につきました。来日後、すでに2年経ちました。今年に入り、私は4年生になって、就職活動にしりに火が付いているという状況です。

見知らぬ国での就職は、五里霧中のことだと当然思っています。就職活動をする前に、きちんと日本の就職マナー、ルール及び日本の企業について学ばなければいけないと思っています。

ここで、日本の企業文化についての感想を述べたいと思います。一つ目に、日本では、「時間」について非常に重視し、約束の時間を守るのは当たり前のことです。しかも、約束した時間より早く着くのはマナーです。なぜなら、遅刻すると約束した相手に迷惑をかけるからです。やむを得ず遅刻しそうな場合は、必ず相手に連絡し、相手に迷惑ならないよう気を付けています。

二つめに、頻繁に休暇を取らないことです。「自分が休暇を取ると他人に迷惑をかけ、他人の負担をかけてしまう」と思っている日本人が非常に多いです。私のアルバイト先の日本人社員は多少の風邪や熱が出ても休みません。一年間の有給休暇を使わず残ったままの人や休暇を取ってもわずかしか取らない社員がとても多いです。

三つ目は、日本人が自分の仕事や職業に対しての真面目さ真剣さです。日本に来る前に日本人は仕事に対して「とても勤勉で真面目」とよく聞きました。中国では、出社、退社の時間とおりに出退社します。今日の仕事が終わらなくても退社して、明日に持ち越します。しかし、日本人は仕事の進捗状況を見て、計画どおりに終わらない場合は残って仕事を最後までやり遂げます。なかには時間を削るために、時計を見ない人もいます。自分の所属会社、企業のためにこのように忘我の境に入り、全身全霊を傾ける姿勢は本当に感激しています。

「六十の手習い」という日本のことわざがあります。つまり、学ぶことは年に関係あ

りません。私は、一般の学生より年が少し高いです。しかし、この言葉を座右の銘にして、日々頑張っています。これからも日本での生活や仕事に対してもっと努力したいと思います。就職活動の前に、襟を正し、真剣に考え、立派な社会人になれるように頑張ります。

最後に、後輩の留学生にメッセージを送りたいと思います。留学生は「自分」だけでなく、異国に留学生することは、その国を代表でもあります。日本での生活がより良くなるため、自分の将来のため、今から努力しても間に合います。真剣に今の生活、今の状況と向き合い、すべてのことを積極的にしっかりと行えば、きっといつか結果がでます。「失敗は成功のもと」失敗しても挫けず頑張ってください。

日本留学で学んだこと

中部学院大学人間福祉学部

オウ ギョウエ

2022 年度文部科学省学習奨励費受給者

日本へ来てもう3年経ちました。その間、私は様々な人々に出会い、たくさんの興味深い経験をしました。そして、日本語や専門的な文化や知識を学ぶだけでなく、これらを学ぶ過程で大きな成長を遂げています。今、このレポートを書きながら、いろいろな経験を思い出して嬉しく感じます。

学習面について、多くの先生から助けと指導を受けました。大学では、専門的な知識を学ぶだけでなく、母国との文化の違いを知ることができます。例えば、先生は各国の学生に聞きとりを行い比較してまとめる授業を行いました。そこで、留学の大変さを共有したり、異文化交流の機会もありました。また、介護実習中も先生や指導者の方々にも大変お世話になりました。先生は、高齢者福祉施設や高齢者のコミュニケーションにおける文化の違いや、高齢者との会話をより円滑にする方法について、辛抱強く教えてくれました。

そして、日本に来て間もなく新型コロナウイルスが流行し、中国に戻って母に会いたいと思ったこともありましたが、私にとって何が最も重要であるかを考えました。母親は私の考えを支持してくれます。このことから、進学という目標を達成するための大きな自信が得られました。

生活面について、アルバイトは私を成長させてくれました。中国では、家庭教師や工場以外に、学生がアルバイトをする機会はありません。ずっと一人暮らしを続けたいので、日本に来たらすぐに働きました。泣いたり、嘘をつかれたりしたこともあったけど、今となってはそれが大切なことだと思っています。生活というのは思った以上に難しいものだ実感しました。時々親に甘えた昔の自分に戻りたいと思いますが、それは不可能だとわかっています。早く成長して一人前の大人になりたいと願っています。

重いことを言ってしまいましたが、日本に来てからいろいろな国の友達に出会えて本当に良かったです。留学生同士、バイトする仲間、偶然に出会った人々が私の生活

に関わって、私をずっと支えてくれました。母国語は違えど、異国で感じることはみんな同じなので、出会えたことがとても素晴らしいと思います。

これから、私は人生に自信をいっぱい持っていきます。また、先生や友人など周りの人に感謝したいです。日本の留学経験は私の大学生活における最高の宝物になりました。最後に、心から皆さんに伝えたいことは、異なる国で留学体験をすることは、自分を大きく成長させるチャンスだということです。

かけがえのない日本での留学生活

中部学院大学短期大学部社会福祉学科

ピョー テインザー モン

2022年度文部科学省学習奨励費受給者

私は子どもの頃、『おしん』という日本のドラマを見て、日本という国を知りました。いずれ日本へ行って留学してみたい考えは高校生の時からありました。日本はきれいな国で、日本の文化や歴史、日本の生活、特に日本語に興味を持っています。日本についていろいろな知識や経験をふやしたくて、また、日本語を上達させたくて、高校卒業後日本に留学することを決心しました。そして、今介護福祉士を目指して中部学院大学短期大学部で勉強しています。

国や家族と離れて、留学することは簡単なことではありませんでした。一人で生活するのは、初めてでなんでも自分でやらなければなりません。はじめの時は分からないことが多くて、日本の食べ物や生活にもなかなか慣れませんでした。知らない人ばかりで不安な日々でした。しかし、日本に来てから一つ驚いたことがあります。それは日本人が礼儀正しくて、とても親切なことです。困ったときに日本人に助けてもらって、日本人の優しさを感じました。日本語の勉強も日本人の友達に教えてもらったから、日本語能力試験N1に合格しました。今は日本の生活に慣れて安心、安全な生活を送るようになりました。

入学したときは、中部学院大学が豪華で美しく感動しました。しかし、介護福祉の勉強が難しいと聞いて心配をしていました。そんな中、学科の先生たちは留学生に対して分かりやすい日本語で詳しく説明してくださいました。日本人と留学生を差別することなく平等に対応してくださいました。学習だけではなくて生活に困ったことがあっても相談することができるので、まるで家族のようです。今は、安心して楽しい大学生活を送っています。これだけではなく、他の大学と違ってこの大学の奨学金制度がとても豊富で、留学生にとって大切な生活費までも毎月いただいています。心配なことなく勉強に集中できてとても助かっています。

日本での留学生活はまだ1年を経っていませんが、この間に体験したことは、今までの人生の中でかけがえのないものとなりました。これからも留学生活に自信を持ってたくさん挑戦して、もっとたくさん知識や経験を増やしていきたいと思っています。

一步一步でも必ず叶うから、諦めるな！

中部学院大学人間福祉学部

ジャコ リユ トリコ

2022年度文部科学省学習奨励費受給者

私は、2017年4月に日本に留学しました。名古屋にある日本語学校で日本語を学びました。日本に来る前に先輩や知り合いなどいなくて、日本はどういう国なのか、日本で生活できるかどうか不安がありました。でも、時間が経つにつれてだんだん日本の生活に慣れるようになりました。

その後、2019年の4月に中部学院大学に入学しました。私は、ここで4年間介護について学びました。私は祖父母の愛情を受けて、幸せな子供時代を過ごしましたが、祖父母が高齢となり、病気がひどくなった時に、家族には介護の知識や経験はなく、世話するのが大変に見えました。「お年寄りなど人の役に立ちたい」という考えを持つようになりました。これが介護を学ぼうと決めた理由です。学び始めたころ、介護というのは「ただ人を世話することだけ」と思っていたのですが、大学で専門的なことを学び、介護施設でもアルバイトを経験し、介護の考え方が変わりました。精神的なサポートや、老いても人間らしく生活するための支援であることを学びました。卒業後は介護福祉士として日本で働き、日本とインドネシアの架け橋になり、お役に立ちたいと思っています。日本で学んだこと、経験したことを、「いつかインドネシアで役に立てたい」と考えています。

国から離れて大変なことや寂しいことなどあると思いますが、後輩の皆さん、どんなに大変なことがあっても諦めずに頑張ってください。「一步一步でも必ず叶うから、諦めるな！ゆっくりでも大丈夫だから最後まで進もう！」と考えるを持ったほうが良いと思います。そして、日本語があまり話せなくても、まだまだ上手く話せなくても、自信をもって頑張る気持ちが大切です。ずっと恥ずかしがっていると良いチャンスがなくなるからです。

私は留学生生活をきっかけに考え方がいろいろ変わりました。とてもありがたいことでした。これからもより良い人生となるよう頑張りたいと思います。

日本語能力試験N1 「合格体験記」

～成せば為る～

中部学院大学短期大学部社会福祉学科

ピョー ティンザー モン

日本での留学や就職のために一番不可欠なものは、日本語能力試験の資格です。どんな目標であっても日本語を勉強するからには、日本語能力試験 N1 を取得するべきだと考えます。N1 に合格するための勉強方法は人それぞれ違うと思います。しかし、一番大事なことは自分が楽しく勉強できる方法を見つけることです。私が N1 に合格するために実践した勉強方法を後輩留学生にお伝えします。

私たち外国人にとっては漢字を覚えるのがとても難しいです。一つの漢字には音読みや訓読み違う発音があって、急に見たら読めない場合が多いです。私は漢字を覚えるためにまずは書けるようにします。書けない漢字は読めません。一度書いて覚えた漢字が記憶に残るからです。そのあと意味を正確に理解して語彙力を高めることです。それに一度学習した漢字を繰り返し練習することが効率が良いと思います。語彙力と読解力のためには、自分が興味のある新聞や雑誌や小説などを通して勉強しました。読んでいるとき意味が分からなかったら、インターネットで調べて理解しました。意味が分かればどの状況に応じて言葉を適切に使うかを知ることができます。

読解力を備えるためには、語彙や漢字や文法の知識を増やすことも必要です。読んだ文章から意味を読み取って内容を把握することで、筆者が何を伝えたいのかが分かるようになりました。もし、試験で自分が一度も見ただけの漢字や語彙が出たら、時間をかけて考えずに抜いて読み続けることも重要です。文法を勉強するときには、まずは文の構造を把握しながらどんな状況で使うか、例文と一緒に覚えたほうが効率が良いと思います。

そして、色々な教科書のなかで自分の学習レベルに合ったものを選ぶことも非常に大切です。幅広い N1 試験分野は一冊で足りなっかと思いますが、まずは、お気に入りの一冊を見つけてしっかり勉強を進めると良いと思います。

それに、勉強のモチベーションを上げるために、勉強する目的をはっきりさせること、勉強が続くとストレスが溜まるので、リフレッシュできる時間を作ることも有効です。日本語能力試験 N1 に合格することは大変ですが、「**為せば成る**」ということわざのように、その気になってやれば何でもできるので、みなさんも合格を目指してチャレンジしてみましょう。

日本語能力試験N1 「合格体験記」

～日常会話で役立つ単語を学びながら N1 合格！

日本のクラスメートとの交流が鍵～

中部学院大学 人間福祉学科3年生

趙 慧婷 (チョウケイテイ)

私がN1に合格するために行った勉強方法について、後輩の留学生の皆さんに紹介させていただきます。まず、私は過去問題集を購入して、過去の試験問題を解くことから始めました。過去問を解くことで、実際の試験の形式を理解し、自分の弱点や不足している部分を把握することができました。また、インターネットを活用して、焼餅日语という無料の模擬試験 app を利用しました。友人と一緒に、過去問を解いて、試験と同じ時間枠を設けて、指定された時間内に問題を解き、互いに採点していました。自分が理解できない問いがあれば友人に説明してもらいますし、逆に友人が理解できない問いがあれば、私が説明することで自分自身も理解を深めることができると思います。

一日の勉強時間については、平均して2～3時間程度を目安にしていました。ただし、試験が近づくにつれて、集中して長時間勉強することもありました。また、一日に解く問題数についても目標を設定し、定期的に自己評価を行いました。

分野別の勉強については、文法と語彙に重点的に取り組みました。N1レベルの文法は複雑なため、例文をたくさん見てパターンを理解することを重視しました。また、日本のクラスメートと交流することで、日常会話でよく使われる言葉を学ぶことができました。聴解については、スクールバスに座っている時間をよく使って、日本語の聴解を練習していました。学校に行く時の40分、帰る時の40分を活用して、少しずつ聴解力を高めるのに役立ったと思います。読解については、様々なジャンルの文章に触れることで、文章を理解する力を鍛えることができると思います。

不得意な分野を克服するためには、定期的に自己評価を行い、弱点を把握した上で、それに対する対策を立てることが大切だと思います。

合格には、先生方や友人のサポートが大きな力になりました。指導してくださった先生には感謝の気持ちでいっぱいです。また、一緒に勉強をした友人たちとの切磋琢磨の日々が、モチベーションを高めてくれました。

毎日のコツコツとした勉強が合格への近道です。諦めずに挑戦し続けることが、目標達成への道を切り開くこととなります！

日本語能力試験N1 「合格体験記」

～私の勉強方法～

中部学院大学 人間福祉学科3年生

孟威 (モウイ)

日本語能力試験N1を合格していますが、私は、主にアニメやドラマを見て学びを積み上げました。N1の復習をどのように始めるかは、実際には受験する皆さんのこれまでのレベルによるもので、一般化して伝えることは難しいです。私の場合は、N2のテストを2回受験しました。1回目は数点足らずに不合格で、2回目は合格ラインを通過しました。少し上の点数で合格ラインを通過することは、実際には非常に危険な信号です。合格していてもN2を十分に学んでいないことは明らかですが、レベルがすでに非常に高いという錯覚を覚えます。しかし、冷静に考えてみると、実はN2の90点と180点では大きな差があります。過去を振り返るとN3、N4、N5がうまく学習できていなかった可能性があります。多くの学生がこの経験を持っていると思いますが、N1やN2受験を前に自分の知識に抜け穴がたくさんあると、後で改善するのが非常に難しくなります。

私にとっては、試験前に語彙を十分に勉強していなかったため、この部分は非常に低いです。言葉の蓄積もアニメやドラマを通じて、知らない単語を調べるのも勉強になります。しかし、私のように学ぶことはお勧めしません。先に述べたように、基本的な知識と語彙は依然として非常に重要だと思います。

聴解練習は比較的簡単で楽しいものです。日本のドラマ、アニメ、バラエティ番組などを見て練習できます。課外演習の選択では、中国語と日本語のバイリンガル字幕は言うまでもありません。文章が理解できず、原文が何なのか分からないというのは、本当にもったいないことです。したがって、最初はリスニング能力に自信がない学生には、自国語訳付きのアニメやテレビシリーズを選ぶとよいでしょう。知識を広げ、後で読むための強固な基盤を築くことができます。

アニメ作品を選ぶ際は、日常的なもの、新しい言葉が多いもの、訛りのないもの、喧嘩や殺しのないのがおススメで、それが日本の文化を理解するのに役立ちます。でも、実際の私はというと、こういうアニメを避けていたわけではなく、時間があれば好きなものは見ます。しかし、それは実際の学習には適していません。自分の状況に合わせて選んでください。

最後に、私があなたに伝えたいのは、できない、または分からないからといって、早々に諦めないことです。大きな壁にぶち当たることは誰にでもあります。だから、「負けない」という強い決意と燃えるような意志があれば、必ず壁を乗り越えることができます。

日本語能力試験N1 「合格体験記」

～失敗から学ぶ方法を見つける～

中部学院大学 人間福祉学科3年生

王晓恵（オウギョウエ）

私が合格するためにしたことは、学習計画を立てて、毎日聞くことを心がけました。日本語能力試験N1は3回失敗したので、ずっと試験に合格できるかどうかにも不安がありました。最初は、ただ、やってみようという軽い気持ちで受験したのですが、やはり不合格でした。2回目と3回目の受験は一生懸命勉強しましたが、その時は語彙と文法に集中し、読解と聴解の重要性を無視していたため、この2つの部分で高い点数を獲得することができませんでした。このように、さまざまな失敗体験を通して、自分に合った学習方法を見つけることが非常に重要だと伝えたいです。

まず、語彙の部分です。この部分は、比較的取り組みやすい部分だと思います。私も初期の段階でたくさんの単語を暗記しました。しかし、忘れやすいとも感じました。そこで、試験前に高頻度の単語を集めて整理しました。たとえば、高頻度の動詞や形容詞などを確認し、時間があるときに繰り返し暗記します。ただし、これは試験前の話であり、日々の学習における積み重ねは非常に重要だと思います。

次は、読解力です。私の経験上、たくさんの過去問を解いています。試験の前に、過去10年間のすべての過去問を解いて、解答のポイントを見つけました。前回の試験前には実際のテストリーディングも行いましたが、それでも得点が足りず、語学力の不足から点数が非常に低かったです。もっと過去問に取り組んでみると、問題を読んだり、解いたりするコツがたくさんあることが分かりました。たとえば、一部の質問に対する答えが元のテキストに含まれていますが、類似した単語が置き換えられている場合が多く、これが答えです。

最後に、聴解の部分です。聞くことは私にとって常に弱点でした。私には、プラスアルファのスキルはなく、毎日、日本のラジオを聞いたり、聴解の過去問に取り組んできました。車の中で聴くのもよし、掃除をしながら聴くのもよしだと思います。

つまり、言語を学ぶことを選択した当初の意図が何であれ、私たちは進歩と思考の変化、新しい価値観と興味深い文化、以前よりも成長した自己を得ることができると信じています。最後に、みなさんが合格できますように願っています。頑張ってください。

自分の不足を認識してこそ収穫がある

中部学院大学人間福祉学部

モウ イ

3年前、ちょうど新型コロナウイルスが流行していた頃だったので、2020年4月に入学するはずだった私は、この年のクリスマスの日に来日しました。あっという間に4年生になります。時間が経つのは本当に早いですね。

日本に来たばかりの頃は本当に迷い、何も分からず、自分一人で全く違う場所に来て、言葉も通じず、店に買い物に行くのも唯々諾々^{*1}でした。加えて、もともと国内で指定されていた計画は、いくつかの不可抗力要素のために自分で仕事を探す必要があり、その時間は本当に大変でしたが、そのために私は成長しました。ぬるま湯から飛び出してこそ、自分なりの方向を見つけることができることもわかりました。ここで、私は一人で大家さんと交渉して、便器を修理して、無線ネットワークを設置して、カーペットを洗って、ご飯を作って、「上九天揽月，下五洋捉鳖」^{*2}。快適な場所から出ないと、自分でこんなに多くのことをできるとは永遠に信じられないかもしれません。ここでは学校の先生方や先輩方が、生活や勉強に多くの助けを与えてくれたことについて、心から本当に感謝しています。

ここで後輩たちに伝えたいことが2つあります。1つは外の世界の大きさを見て、自分の小ささを知る。日本への留学は成功もあれば失敗もありますが、海外の多元化を感じ、自分の不足を認識できれば、留学生活に収穫がないとは言えませんし、帰国しても、その経験に基づいてまとめて、自分にもっと良い人生計画を立てることができます。

もう一つは、留学生活は数奇に満ちているが、これらの数奇は人生経験の一部であり、大したことではないということです。私の留学生活の中で一番忘れられないのは、助けてくれた人たちです。私は今でも私を助けてくれた先輩の話を覚えています。その時、私は彼に感謝するため、食事をごちそうしましたが、最後は先輩の勘定でした。その時、彼は「私があなただけを助けるのはお金のためではありません。私もそれを経験した人なので、あなたが困っているのを見て、あなたを助けたいと思っています。もし、あなたが

私に感謝したいなら、あなたは後で後輩が困っているのを見て、手を伸ばせばいいのです」と言いました。この言葉は今でも頭の中に残っています。ですから、後輩たちには自分の留学の苦勞を覚えてもらい、これからも自分の後輩を助けてほしいと思っています。

*1 唯々諾々 事のよしあしにかかわらず、何事でもはいはいと従うさま。人の言いなりになり、おもねるさま。「はい、はい」の意。

*2 毛沢東の詩《水調歌頭・重上井冈山》。天の最も高いところで月を抱えて、5つの海でスッポンを捕まえる→人は雄大な理想を抱き、偉大な志を立て、知恵と力を使えさえ、なんでもやれます

安心できる留学生生活

中部学院大学短期大学部社会福祉学科

ナン ケン ナウ

母国を離れて留学するというのは、私にとって勇気がたくさん必要でした。一人で外国で生活するのは不安だし、自分の日本語にも自信がなかったからです。色々心配していましたが、先生たちが留学生に優しくかったので大学に来て良かったと思いました。先生たちは学校の勉強だけでなく困っていることの相談も乗ってくれたので一人じゃないと感じて心が強かったです。留学生たちが安心して勉強できるように毎月サポートする奨学金ももらいました。こんな機会を下さった中部学院大学短期大学部に心から感謝しています。

この先、日本での生活でどんな事が待っているか分かりませんが、今やっていることは一生懸命頑張って、よく勉強し、よく遊びながら日本での生活を楽しんでいます。

「日本への留学を通して、自分を知る」

人間福祉学部 陳 金城(チンキンジョウ)

初めて日本に来た時は20歳でした。一年間留学生別科で学び、四年大学へ進学をしましたが、瞬間に5年間の中部学院大学での留學生活が終わりました。

今、一番の思い出深いことは、大学四年生の後期に介護福祉士国家試験に向け、クラスお仲間や先生と一緒に一生懸命に勉強に取り組んだことです。「努力は人を裏切らない」という言葉のとおり、私は介護福祉士国家試験に合格できました。四年間先生方が一生懸命に教えてくださり、国家試験当日も先生が試験会場まで応援しに来てくれました。私は涙が出てきそうなくらい感動しました。

私が中国の学校にいる時、先生は上、生徒は下で、常に距離を保っていました。

先生との交流は学習のことに限るのが普通でした。しかし、日本の大学に入ってビックリしたことは、日本の先生は学習のことだけではなく、生徒の生活や興味などに興味を持ってくれて、学生の意見や気持ちを尊重し、同じ人間として平等に対応してくれました。先生と生徒の関係にとっても暖かさを感じました。これは中国の学校生活では体験したことがありません。日本での生活は、学校の先生やアルバイトの同僚、近所の日本人の方々にも大変お世話になっており、日本での5年間の生活で、中国にいた頃には感じたことがない、人間らしい優しさ、思いやりなどのあたたかい心を実感しました。

卒業の時期を迎え、「もっと勉強すればよかった」「興味を持っていた科目を履修できなくて残念だった」など、いろいろな思いがあります。大学一年生と二年生の時、私は何をしたいのかが自分でわかりませんでした。アルバイトと学校の授業との両立で自分は精一杯だと思っていたから、他のことに関心を持つゆとりもありませんでした。

しかし、大学で行われた「ビブリオバトル(知的書評合戦)」へ参加をしようと挑戦したのをきっかけに、学校の活動や地域活動にも積極的に参加するようになりました。そして、「岐阜県内外国人留学生弁論大会」にも出場しました。最初は「自分にできるだろうか」と不安でしたが堂々とスピーチをすることができました。こうしたチャレンジをしたこと、経験をしたことで、自分の価値を見いだすことができ、私は自信を身につけることができました。

「自信を持ってやろう!」と言葉だけで励んでも自信はつかないと思う。自信をつけるためには、自分が行動することが一番大事だと思います。問題に直面した時には、たとえ小さな問題でも一つ一つ解決するために試行錯誤することが大切です。学校や地域などのさまざまな活動に参加し、自分の成長するチャンスを逃さずチャレンジしてほしい。これが、先輩として後輩の皆さんに贈る私からのメッセージです。

「私を育ててくれた日本」

中部学院大学短期大学部社会福祉学科2年

レー ティー トー チャン

私が高校生だった頃、「いずれ海外に行ってみたい、何か新しいことに挑戦してみたい」という夢がありました。でも、海外といってもどこに行けば本当に有意義な留学生活が送れるのかわからず、正直悩んでいました。

周りの友人はフランスやアメリカ、オーストラリアなどへの留学を考える人もいました。確かに英語圏の国に行けば英語も上達するし、先進国であればいろいろなことを学べるはずだと私も思いました。しかし、ベトナム国内でも英語で授業を受けられる大学があるので、英語圏の国に行かなくてもほぼ同じような教育が受けられるのではないかと考え直しました。

いろいろ将来について悩みましたが、私は日本語を学ぶため、そして介護の勉強をするために日本への留学という道を選びました。

日本の学校で学生として学び、そして日本で働いてキャリアを積むことで日本の社会に貢献したいと、いつしかそんな夢（目標）を持ちました。

日本にはすでに友人がいましたが、もっと多くの人と出会い、交流したい、自分は微力かもしれないが、日本の社会に貢献したいと思いました。日本で出会う人々と大切な関係を築き、素晴らしい経験をしたかったです。日本に留学することで、その実現に一步近づくことができると確信しました。

私は日本に留学して3年が経ちました。この3年間で私は強くなりました。ベトナムにいた頃は、いつも両親の腕の中で甘えていた子どもでした。しかし、留学してからこれまでの間、たくさんの日本人に助けてもらい、教えてもらい、学校でそして社会の中で成長することができました。そして自分に自信を持つことができました。私をここまで育ててくれた「日本」に感謝しています。ありがとうございました。

これからも困難なことがあるかもしれませんが克服して、自分で選択した道に最善を尽くして頑張りたいと思います。

日本語能力試験N1 「合格体験記」

～自分に合った勉強方法を見つけよう～

中部学院大学短期大学部 社会福祉学科 2年

アマド ファイサル

日本に住む外国人だけでなく、海外で日本語を勉強している人々にとってはN1に合格できることは夢のようです。N1に合格すると自分の日本語のレベルやスキルを証明できるので、進学や日系企業への就職の道がますます広がります。私はN4からN2まで一発で合格しましたが、N1合格するまでは2回不合格を経験しました。そのときは悔しかったですが、絶対に諦めないと思いました。

N2の試験までは「語彙/文法/漢字/読解」の勉強方法は教科書を使い、単語と漢字を暗記して、文法の使い方を理解するだけで合格できました。そのため、教科書を使い、同じ勉強方法だけで、N1に合格できるだろうと私は思っていました。結果は不合格でした。

2回目のN1の試験を受けるまえ、N2と違い、やはりN1は文法と漢字の知識だけでなく、日本語の幅広い知識も必要になり、教科書だけで勉強するだけでは足りないと気が付きました。そのときから、私はテレビを見るときや授業やバイト先などでわからない言葉や漢字が出てきたらすぐに辞書で調べるという習慣を作りました。そうすると、日常生活において使われる言葉と漢字の意味だけでなく、どのような場面で使われているのかも分かるようになりました。2回目のN1の試験の結果は語彙、文法、漢字の点数を向上できましたが、読解だけは向上できず、最低合格点数を超えられませんでした。そのため、3回目のN1の試験を受けるまえに、読解を中心に勉強を進めたいと思いました。N1の読解は新聞のような論理的でやや複雑な長い文章から短時間でポイントを見つける必要があるため、読む速度と理解力を向上する必要があります。しかし、大学の授業や介護福祉士の国家試験が近づくにつれて、読解を勉強する余裕がなかなかありませんでした。そのため、読解の勉強は読解の教科書の代わりに、介護福祉士国家試験のテキストで読解の勉強を進めました。そうすると、気づかずに長い文章を読む速度を少しずつ向上させることができました。また、介護福祉士国家試験の勉強も進んでいるので、一つの行為により二つの利益を得ることができる、まさしく「一石二鳥」になりました。

私の勉強方法が全ての人々に合うとは思いませんが、日本語能力試験で合格できるためには、最初に文法、語彙、漢字、読解、聴解の中から自分の弱点を見つけ、そのあと自分にもっとも合った勉強方法を見つけたいと思います。皆さん、頑張ってください。

「日本語能力試験N1 合格体験記」

～日本語能力試験N1 合格 私の勉強法～

中部学院大学短期大学部 社会福祉学科 2年

ノン ヴィアン フン (ベトナム出身)

私は合格するためにしたことは、YouTube を利用して日本語の勉強をしたり、日本語の本を読んで勉強しました。自分でわからない日本語は周りの人に聞いたりして、日本語の知識を得ました。私はアルバイトをしながら、一日に約2～3時間勉強をしました。日本の映画を見て勉強した時もありました。映画を見ながら勉強していて「言葉の意味」がわかるととても面白いなと思いました。私は日本の映画で感動する内容のものがとても好きになりました。日本語がもっとうまくなりたいと思い、いろいろな日本人とコミュニケーションをとり、日本語の知識を得ました。とても勉強になり、「N1の日本語能力試験に挑戦したら、もしかして合格するのではないか」と自信がつき、N1試験を受けました。嬉しいことに見事に合格しました。

私が日本語の勉強をしていて思ったことは、実際に日本人と話すことはとても勉強になるなと思いました。日本人と話すことで正確な日本語をその場で学べるということは貴重なことです。今、コロナ禍でなかなか人と話すことは難しいです。もし、日本人と話すことが難しいと思ったら、YouTube で調べて日本語を学ぶことができます。YouTube なら、自分の好きな時間に聞いたり、寝るとき流したりなどをして、私は日本語を覚えました。ぜひやってみてください。YouTube には日本語の基礎から学ぶことができ、自分のレベルに合わせて聞くことができるので皆さんにもお勧めします。

これから N1 の日本語能力試験を受ける留学生の皆さんに、私の勉強方法が参考になれば、ぜひ私の真似をして日本語の勉強をしてみてください。そして日本語がある程度わかるようになったら日本人とコミュニケーションをとったり、日本の映画を見てください。日本の映画は自分の国と違った場面が多くて日本の文化についても学べるので、ぜひ私の方法で勉強をして N1 に挑戦してください。きっと、必ず受かります。

そして、努力は報われます。自信をもって受けてみてください。応援しています!!!

日本に留学して日本語を教わるとき、「本当に日本語が話せるようになるのかな? これから日本でうまくやっていけるのかな?」ととても心配でした。「日本語の試験なんて受かるのかな? 日本語の発音も漢字も難しい。そして、丁寧語? 尊敬語? 謙譲語? なにそれ意味が分からない」と思っていたのですが、先生方が優しく丁寧に教えてくださったおかげで日本人と話せるようになりました。日本の映画が観ていてわかるようになりました。本当にありがとうございました。ここまで日本語が上達し楽しい留学生活が送れたのも先生方のおかげです。3年間お世話になりました。ありがとうございました。

「日本語能力試験N1 合格体験記」

～趣味を活用して自分の勉強法を作りましょう～

中部学院大学短期大学部 社会福祉学科 2年

チュオン タイン ヒエン (ベトナム出身)

日本で生活をし、仕事あるいは専門知識を勉強するためには、日本語能力が必要です。そして、日本語能力の証明として「日本語能力試験N1」は誰でも取得したい資格です。日本語能力試験N1を取得するためには、人によって勉強方法はいろいろあります。日本人と関わって、会話を通して勉強していくとか、教科書を活用して勉強していくとか、いろいろな勉強方法があると思います。

教科書を使って勉強するには、事例を通して言葉、文法を覚えていき、課題を解いて知識を身につける、つまり繰り返し問題を解くことで試験問題ができるようになります。しかし、多くの留学生にとっては教科書を購入するにはお金がかかり、時間がかかり、勉強しにくいこともあります。私もこの勉強方法はお金もかかり、時々つまらないと感じてしまい、自分の勉強方法は何が一番いいのかと考えました。

そして、私は「自分の趣味である読書と映画鑑賞を活用して日本語能力試験の勉強をしよう」と決めました。この勉強方法では、読書をすることで言葉・漢字・そして読解技術が自然に身につきます。そして、映画鑑賞することで自然と耳から日本人の言葉の使い方や文法、言葉のアクセントを聞き取ることができ、聴解技術がレベルアップできます。もし、趣味が合うなら皆さんにもお勧めしたい勉強方法であると思っています。

また、他にも、もし音楽が好きならば日本の歌を聴き、映画鑑賞と同じ効果が得られると思いますし、旅行が好きならば旅行の情報は日本語で読み取るようにしたり、料理が好きな方には日本語のレシピを使うとか、日本の調理番組などを見るとか、それぞれの趣味に合わせて日本語能力の勉強に活用できると思います。

この趣味を活かした勉強法は、もしかしてすぐには効果が見えないかもしれませんが、長く続けると、他の勉強方法よりも効果があると私は信じています。

趣味とともに勉強できるため無理せず楽しく勉強ができます。また、毎日何時間の勉強が必要ではなく、暇な時間を使って、時間を気にしないぐらい楽しく勉強ができます。私は、ルールなどを作らずに、自然に楽しく勉強した方がいいと思います。

日本語能力試験に合格するためには、一人一人自分に合った勉強方法があります。日本に留学して、もしまだ自分の勉強方法を見つけていない方がいたら、「自分の趣味を活用して」勉強してみませんか。

留学生活について

中部学院大学人間福祉学科四年生のゴカイテキです。時間がすごく早いもので、2016年4月に来日して、四年が経過しました。今までに日本の学生生活で感じたことを書くことにします。

高校二年生の時に、英語の代わりに日本語を選んで日本語を学習する少人数の特別授業を受けました。中部学院大学と私の高校は姉妹学校で、また中国でよく日本のアニメとドラマを見て、日本の文化や習慣にも興味を持っているから、日本の独特な文化や習慣をもっと知って、日本で実際に生活したいという目標を持って、入学試験と面接を応募しました。

大学生になってから学業に専念し、普段は週末にアルバイトで生活費を稼ぎ、色んな活動にも参加し、体験している私は日々充実した生活を過ごしました。確かに最初の両親と離れて、言葉が通じない異国に来て、生活面も自力で面倒を見なければならぬし、何が起っても自分で決定するしかありません。ですが、振り返ってみると今の私は、本当に初めて日本に来たときよりも成長したと感じました。

以前の私は人とのコミュニケーションをとることがとても下手でした。慣れたことをしたり、慣れた人と付き合ったりすることが一番良いと思っていました。特に人の前で発言するなんか怖くて、初対面の人との会話が嫌でした。日本での数年間、私は何度も自分を変えようと試みてきました。弁論大会に参加したこともあり、また各種の国際交流活動もあり、自分の度胸をよく鍛えました。特に今年4月からロータリー米山奨学生になって、世界各地から来る留学生たちやロータリー会員たちと交流することができて、例会で社会の目の上の社長と一緒に食事したり、声をかけてくれたりと本当に嬉しかったです。日本で学生生活を体験し、特に今年ロータリー米山奨学生になって、私の人生は豊かになりました。私にとって大きな財産だと思います。これからもロータリー米山奨学生となって得た経験を生かして、挑戦する心と奉仕の精神を忘れずに頑張っていきたいと思っています。

成長を実感しながら楽しむ日本での留学生活

TRAN THI MY HANG

社会福祉学科2年生

2018年3月に、ベトナムの小さな町に生まれ育った私はやっと日本に来ました。その時、ちょっと肌寒い感じがしましたが、学校までのバスから見た美しい桜の景色や先生方のもてなしが私を迎えてくれて心が温まりました。これから私の人生は新しいページに入り、「お金や時間を無駄にしないように充実した留学生活を過ごそう」と心がけました。

中部学院大学留学生別科に入学して、思ったより日本語の勉強とアルバイトを両立することが難しかったです。例えば、アルバイト先は介護施設で、日本語があまり話せない私は方言をよく使っているお爺さんとお婆さんと接する時には、日本語があまり通じなくまごまごしていました。また、日本人と比べてベトナム人の私たちの歩くスピードはまだ遅くて、のんびり過ごすことが多い気がしています。そのため入学したばかりの時に、ベトナム人留学生の私たちは厳しいながら親切な担当の先生に「早く、早く…」とよく注意されていました。今でも頭の中に担当の先生の声が浮かんできます。

3, 4か月が経って日本の留学生活によりやく慣れてきて、忙しい毎日ですが、楽しいです。学校で授業を受けるだけでなく、遠足やコンサートに行ったり、茶道などの日本文化を体験することもできました。中でも私が一番印象に残っていることは2018年10月に関キャンパスの大学祭に参加したことです。中部学院大学に在学しているベトナム人の先輩たちと協力して、「アオザイ」というベトナムの伝統的な服装の試着を行ったり、自慢の「揚げ春巻き」を販売しました。最初は「皆、ベトナムのことに興味があるかな」とちょっと心配しましたが、思ったより多くの人に来てくれて、本当に嬉しかったです。

一年後、日本語課程が終了して介護福祉士学科へ進学しました。クラスに留学生だけではなく、日本人もたくさんいます。日本に留学して、色々な人に出会えたことが何より良かったと思っています。卒業するまで、残り少しの時間も積極的に行動し、もっともっと意味のある留学生活にしたいです。日本にいる時間は私にとって、青春時代の中で一番美しく、一生忘れがたいメモリだと思っています。

最後に、初めて外国に留学し、何も知らない私が前より落ち着いて、成長できたのは先生方の教えや応援があったからです。私はいつも皆様の親切な姿に感謝の気持ちでいっぱいです。

奨学金の留学生活

こんにちは、中部学院大学短期大学部社会福祉学科二年生のミンカンゾーです。留学生生活には本当に大変な事がたくさんあります。まずは勉強です。厳しい勉強に私たちはついていけないといけません。そのため、日本人が頑張るより二倍三倍もっと頑張らなければなりません。普段の平日にはほとんど毎日学校があるのでゆっくりと時間をかけて勉強をする事が出来ません。土曜日と日曜日に勉強しようと思っても一週間にこの二日だけアルバイトに行けるのでゆっくり勉強する時間や休みの日はいくらいいです。

一週間に二日くらいだけアルバイト出来るので、毎月の収入も少ないです。そして、留学生にはアルバイトの出来る時間の制限があるのでそれもしっかり守らないといけません。普段なら一週間に28時間アルバイトをする事が出来て、夏休みとか冬休みなど長い休みの時にはアルバイトは40時間出来ます。毎月の収入は家賃を払ったら自分の手にはなにも残らないことが多いです。そのため、毎月の食費や交通費などのためには大学からもらった奨学金を使わなければなりません。この奨学金をもらっているからこれまで元気で勉強にも少しでも時間をかける事が出来たのです。長い休みがある時はアルバイトがたくさんできるので収入も増え、この奨学金が余ることもあります。その時は、来月の分を分けたり、親の為に仕送りを送ったりすることが出来ます。

私たち留学生のために特別なチャンスがあります。それは大学からもらった奨学金については留学生は返さなくていいという事です。しかし、日本人の学生は奨学金をもらったとしても就職後は返さなければならないという事になっています。私たち留学生からするとこれは本当に助かります。もし私たちが就職してからこのもらった奨学金を返すとしたら本当に大変な事になります。私たちが就職したら親も私たちからの仕送りを期待していると思いますし、自分の兄弟の学費とかも私たちが支援をしなければならないからです。

中部学院大学大学院 修士課程
王 吉彤(オウキットウ)

将来の夢は「福祉の夢」? 「今を生きること」?

「あら、王ちゃん、早いね、今日も中国から来たの?」と朝、アルバイト先についたら、Aさんは冗談を言ってくれました。Aさんは私がアルバイトをしている高齢者施設の利用者さんです。今年の1月にご主人と一緒に施設に入所してきました。入所したとき、すでに子宮癌だと診断され、余命三か月くらいだと言われました。病気のことを知っていますが、それでも、Aさんは毎日とても前向きで、元気に生活していました。話が好きで、親切な方なので、私が一人で日本で生活していることを知ったら、いつもいろいろと話しかけてくれました。そんなAさんは入所して、一か月後のある日の夜中、病状が急変して、入院することになりました。二日後、退院しましたが、その後も、何回も入院、退院を繰り返しました。最後に入院したのは4月18日です。その日はちょうどAさんの誕生日でした。三日後、朝出勤したとき、Aさんが病院で亡くなったことを教えられました。それを聞いて、頭が真っ白になり、涙がぼろぼろとあふれ出てしまいました。三日前、仕事が終わって、帰ろうとするとき、Aさんは私を呼び止めて、「王ちゃん、これ、娘が持ってきてくれた誕生日ケーキで、持ち帰って食べて、明日、雨が降るそうで、自転車で気を付けてね～」とにこにこ言ってくれました。そんなに親切なAさんがなぜ? どうして? と私はとてもショックでした。隣にいた仲間は私の気持ちを読み取ったようで、「施設はこんなところですから、今日はみんな元気で生活していますが、明日どうなるのか誰にもわからないでしょう」と慰めてくれました。その時、「死」がこんなに身近にあるとはじめて認識しました。

一年前、私は周りの人の反対を無視して、自分の夢をもって、一人で日本に来ました。長い間、夢はなんですかと聞かれたら、私は正直に答えるのが怖かったのです。なぜかというと、福祉の夢、介護の夢だと答えたら、笑われるからです。今の中国の高齢者介護の現場では、ほとんど40代、50代の農村地域から出稼ぎに来た女性です。20代のスタッフがいないとは言えないですが、ほとんどいないのが現状です。でも、中国も今高齢化社会にはいって、しかも、早いスピードで進んでいます。高齢化社会に直面して、自分に何ができるのでしょうか。いずれ自分の親も高齢になって、介護が必要になるのです。その時、自分に何ができるのでしょうか。少しでもいいですから、高齢者のために何か役に立つことをやりたいです。その思いをもって、日本に留学することを決心しました。来日して、もう一年になりました。この一年間、大学で認知症ケアの研究をしながら、先ほど紹介した高齢者施設でアルバイトをしています。介護の仕事は大変ですが、利用者さんが笑顔で「ありがとう」、「あんたがいてくれてよかった」と言ってくれた時、認められたときのうれしさは何よりです。いつまでも忘れられないです。ですから、日本に来てよかったと私は心から思っています。大学でいろいろと専門知識を教えてくれた先生、施設でいつも優しく手伝ってくれた仲間、笑顔で「ありがとう」を言ってくれた利用者さんのおかげで、本当にいろいろな経験ができました。特に利用者さんとの死別を経験して、「今を生きること」の大切さを身をもって学びました。まさに仲間が言ったように、明日どうなるのか誰にもわからないのではないのでしょうか? 明日より、今日、今こそ一番大事ではないのでしょうか。私たちは明日をつかむことはできませんが、今日を大切にすることはできると介護の仕事を通じて、わかりました。

もし今、夢は何ですかと聞かれたら、私は自信をもって、答えます。私の夢は「今を生きることの大切さ」を実践し、伝えていくこと、そして、そのことを通じて、「福祉の夢」を実現することです。これからも、自分の努力を通じて、もっと多くの人に高齢者介護の意義と重要性を知ってもらいたいです。そして、自分の夢に向かって、少しでもいいですから、日本と中国の福祉事業のために、何か役に立つことができるように頑張っていきたいと思います。

経営学部 経営学科
董 琪 (トウ キ)

「光陰は矢の如し」。私は、日本に来てまもなく三年になります。この三年間に私はたくさんの方のことを経験しました。一つ一つは、立派なものではないですが、私にとって一生忘れられない、永遠の思い出となりました。

私は、高校卒業後、すぐに日本への留学を選択しました。中国国内の大学へ進学したクラスメートたちと比べると、友達や友人とワイワイと話をする時間が少なく、両親に甘えることもできません。しかし、「留学は旅行ではない、生活を楽しみに来ているわけではない」と自分に言い聞かせ、頑張っている間に、自分に自信を持つことができるようになりました。本当にいろいろなことを日本で勉強することができました。

日本へ来たばかりの時は、日本語がうまく話せないため、アルバイト先がなかなか見つかりませんでした。半年過ぎてからようやく一軒の料理店に雇ってもらいました。店に唯一人の外国人として、みんなから優しく接してもらいました。店の人たちは中国のことに興味があり、最初はあれこれ聞かれました。しかし、日本語が下手だった私は、質問の意味がよく理解できなかつたり、日本語でどのように説明すればいいのか分かりませんでした。それが恥ずかしくて、その場から逃げ出すことがたびたびありました。しばらくすると、周りの人たちはだんだん私としゃべらなくなりました。それに気づいた私は、すぐ落ち込みました。他の人は、楽しそうにおしゃべりをしながら仕事をしていましたが、私だけ中に入ることができず、とてもショックでした。このようなつらい経験をして、もっと日本語を勉強しようと決心しました。

私は中国のバラエティ番組やアメリカのドラマは好きですが、日本のドラマは苦手でした。すらすらと日本語をしゃべれるようにと、私は一生懸命に頑張りました。幸い、多くの日本の番組やドラマには字幕がついています。聞いたこともない単語や分からない言葉を見たら、すぐメモを取り、辞書で調べました。どうしても覚えられない単語があると付箋に書いて自分が見えるところに貼りつけました。歯を磨く時、寝る前に何度も何度も復唱し、覚えるまで復習しました。

また、日本語が上手な友達に日本語の勉強方法を聞きました。友達からは「日本語が上達できる方法は、自ら積極的に日本人の方と話すこと。日本にいる私たちは外国人だから恥ずかしいことではない。間違っても笑われないよ。」と助言をもらいました。それ以来、私は積極的に周りの日本人に声を掛けるようになりました。少しずつ、私の日本語は以前より上手になっていることに気づきました。しかも、話す時に以前のような緊張感もなくなりました。真面目に勉強しようとしている私の姿勢を見た日本人の友達は、いろんなことをさらにやさしく説明してくれるようになりました。今、その料理屋からは離れましたが、そのとき身につけた勇気と自信は一生に役立つと思います。

日本語がうまく話せるようになって、私もだんだんと明るくなりました。外国で生活するとき、まわりのものは変えられませんが自分を変えられます。このことに気づくことができたことは、自分が成長した証だと思います。

時間はまたたく間に過ぎていきます。卒業の時に、自分が満足できる成績を残すために、これからも頑張りたいと思います。この日本での経験は私の一生の宝物です。

経営学部 経営学科
王 雨晨 (オウ ウシン)

光陰矢のごとし。

日本行きの飛行機を乗ってから、半年過ぎました。日本の生活にすっかり慣れた今の私は、この速さに驚きました。高校を卒業したばかりの私は、日本への留学に心配と不安でいっぱいでした。しかし、私は「自分の人生、自分の足で歩む」ということを信念として、両親の期待と友達祝福を背負って日本にやってきました。飛行機から降りた瞬間、家から離れ、祖国を離れたという実感が湧いてきました。

4月の日本は、桜が満開の季節です。空中に舞い散る桜の花びらと温かい春の風に触れ、心から暖かくなりました。澄んでいる川、みどりの木、青い空、綺麗な空気、PM2.5の心配はありません。綺麗な道並み、突然飛んでくるビニール袋の心配はありません。あっちこっちにゴミは置いてありません。

日本のことを言うと、二つのことを私たちは学ぶべきだと思います。

一つ目、ゴミの分類。日本では、ゴミの分類はとても厳しいです。ゴミの収集は地域によって、定期的に行われています。可燃ゴミ、不可燃ゴミ、資源ゴミなど細かく分類されています。決められた時間と場所にゴミを捨てます。また、ゴミ袋の色も地域によって違います。日本へ来る前に、ゴミ分類のことを中国の先生から聞いたことがありますが、実際にやると容易なことではありません。うっかりして忘れたら、次回しか出せません。特にゴミは絶対ドアの外に出してはいけません。猫やカラスなど動物が荒らすことはあるので、大家さんや管理会社に注意されることもあります。町の衛生を守るためにはみんなの協力と努力が必要です。

二つ目、交通ルールを守ること。日本では、“人が最優先”という交通状況が徹底的に実施されています。道路に交通整理する警察がいない、違法の交通監視カメラも設置していませんが、人々は自然に交通ルールを守っています。

次に、日本人についての印象を述べたいと思います。半年間日本人と接し、日本人は友好的、謙遜的なイメージを強く感じました。知っている人、知らない人でもいつも笑顔で接してくれます。日本の留學生活は、日本語の勉強だけでなく、毎日の生活においても勉強になることを分かりました。人との接し方、日本式の礼儀・作法、正しい人間になるための筋道など。

6月に、日本の伝統文化を学ぶために、大学の教職員と一緒に三重県の伊勢神宮へ見学に行きました。1300年の歴史を有する伊勢神宮、今年20年一回の遷宮の年となります。賑わう伊勢神宮の参道には大勢の外国人参拝者がいました。伊勢神宮は深い森の中に建てられ、厳かに神秘的でした。手を清め、参拝した私たちは、留學生生活の中でも特別な一日となりました。

日本は経済成長期に、伝統文化を守りながら世界からたくさんの異文化を取り入れました。独特な雰囲気に包まれている美しい国、私は益々好きになりました。もっと知りたいことがいっぱいあります。これからの留學生生活はもっと素晴らしいものになると信じています。

人間福祉学部 人間福祉学科

李 国軍 (リ コクグン)

私は、中部学院大学人間福祉学部4年生の李国軍と申します、中国の山東省からやって来ました。日本に留学して色々なことを学びましたが、一番印象に残ったこととして、日本のトイレのことについてお話をしたいと思います。

シンガーソングライターの植村花菜さんの「トイレの神様」という歌を聞いてから、世界一綺麗である日本のトイレに興味を持つようになりました。植村さんの歌った「トイレの神様」の歌詞には次のようなフレーズがあります。「おばあちゃんがこう言った、トイレにはそれはそれはキレイな女神様がいるんやで、だから毎日キレイにしたら、女神様みたいにべっぴんさんになれるんやで、その日からわたしはトイレをピカピカにし始めたベッピンさんに絶対になりたくて・・・」

この歌を聞いたあと頭に浮かんできたのが、「日本のトイレはなぜこんなにも綺麗か?」「日本人はなぜトイレを大切にしているのか?」ということでした。日本人の皆さんは普通だと思っているかも知れませんが、中国から日本に来て驚いたことは、日本では、家庭のトイレだけでなく、公衆トイレまでも綺麗なことです。

日本のトイレの呼び方は、何種類もありますが、一般的には、「トイレ、お手洗い、化粧室」と呼びます。また、日本の禅寺では、トイレのことを「東司」(とうす)や雪隠(せっちん)という名前呼び、特別なところとして昔から大切に扱ってきたそうです。また、最近では11月10日を「トイレの日」とし、日本トイレ協会も設立されたそうですが、たぶん他の国では見られないことかも知れません。

また、兵庫県神戸市にある高校では、トイレ掃除を「訓育」の一環として利用しています。「最も汚れやすい場所を、最も清潔に保つことが大切である。」という考え方のもとで、「心と精神」を鍛える教育を行っているそうです。トイレ掃除をする時には、汚れても大丈夫なように上半身は裸で、白い短パンに着替えて、手で便器を持ち、顔を近づけ、ゴシゴシと便器の隅々まで磨くそうです。意外にも、生徒たちは「トイレ掃除」を結構楽しそうに行い、トイレ掃除を通して色々なことを学んでいるそうです。

私は日本に留学してもう四年が経ちましたが、日本のトイレについては感心することばかりです。日本のどこへ行ってもトイレは綺麗で、便利な設備も色々設置されています。お年寄りには手すり、赤ちゃんにはベビーチェア、女性には化粧専用コーナー、子供には幼児用小便器と手洗器が用意してあります。若い母親にはおむつ交換台と授乳室、忙しいオフィスレディには洋服やストッキングの着替えボードも設置されているところもあります。

このようにトイレに様々な工夫ができるのは、日本人独特の繊細な気配りが基礎にあり、これは日本人の「おもてなしの心やサービス精神」にも通じるものがあるのではないかと思います。また、トイレを製造する人が、利用者のニーズに対してどんな小さなことでも一つ一つ丁寧に応える気持ちがあるからこそ、できることではないかと思います。

たかが、小さなトイレのことですが、その国のトイレが綺麗であり、衛生的で便利なトイレが公衆トイレまで普及しているということが、その国の政治の安定、生活の質や文化水準の高さを示すバロメーターになるのではないのでしょうか。また、トイレ環境を改善するためのハイテク技術があるかということにもつながります。その国のトイレを見ただけで、他の分野においても海外に進出するだけの潜在的なパワーがあるかどうかも分かるのではないのでしょうか。

安全で清潔な日本の生活文化水準の高さを世界に示すことのできる絶好の機会が2020年の東京オリンピックだと思っています。世界の人々に、日本の快適なトイレやお風呂などをいろいろ体験してもらい、自分たちの知らない世界があることを知ってもらおうチャンスです。

日本のトイレの気持ちのよさは世界一だと思います。この「トイレ文化」を活用し、日本の生活水準の高さや高度な技術力を世界中に紹介し、日本が住みやすく美しい国であることを世界中に伝えましょう。

私は、卒業後、中国に帰り貿易関係会社に勤務しますが、日本の「トイレ文化」の背景にある日本の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

「日本の綺麗なトイレには、日本を元気にする女神様が住んでいるのではないのでしょうか」

日本では、新卒一括採用という企業が卒業予定の学生を対象に一括して求人し、在学中に採用試験を行って内定を出す日本独自の雇用慣行があります。即戦力の人材を重視する世界の各国に比べ、新卒一括採用は恵まれているように思えますが、新卒一括採用を一般化している学生の国際競争力はどうでしょうか。

今日は日本と香港の新卒者採用制度を比較して、発表したいと思います。

新卒一括採用の利点として、内部労働市場と長期雇用が前提の仕組みのため、組織としての一体感や、組織への忠誠心を高める効果があります。人材の離職率が低いのも魅力的です。そして、企業にとって会計処理が楽になることでしょう。採用は4月に集中するので、固定費として考えることができます。また、日本企業の多くは3月末が決算期のため、人材計画を立てるうえでも合理的だと考えられます。

しかし、近年、新卒一括採用を批判する声も少数ではありません。脳科学者の茂木健一郎氏が「今日の夜、東京のある駅の近くを歩いていたら、全く同じようなリクルートスーツを着た学生の集団が数十人、騒ぎながら通り過ぎていた」「画一性。没個性。この国は、本当に終わっているんだなあ、と思った。経団連のお墨付き」などと、就活、新卒一括採用を批判しています。

結果、大学で修めた学業の中身はほとんど重視されず、コミュニケーション能力や成功体験の有無といったアナログな基準で大雑把に判断される流れが定着してきました。諸外国と比べ、日本の大学にはなぜか20歳前後の若者しかおらず、学生の多くはあまり熱心に勉強していません。

一方、香港では通年採用です。通年採用というのは時期に関係なく、会社は何時でも社員を募集することができる雇用慣行です。利点として企業は即戦力になる人物の採用がしやすくなるでしょう。また、新卒者に対し、新卒一括採用のような大学の3、4年の時に参加しなければならない就職活動と比べ、通年採用の方が与えられるストレスが少ないと考えられます。大学生生活の最後の時期で卒業論文の完成、進学、就職など自分がしたいことをするごとができ、残り少ない学生生活で自分の将来を充分に考えることが出来ます。また、転職もしやすいです。人生というのは予測することができないものです。様々な職場で働き、様々な経験を積み、仕事だけでなく人生そのものを充実させることができます。

しかし、リスクもあります。企業への忠誠心が育たないことです。企業側は職員を何時でも免職することができます。これは極端な実力主義を意味します。新卒者にとって、将来の職位も給料も保障できない企業はただの短期的な働き場に過ぎません。弱肉強食の社会で新卒者にとってはあまりにも不公平だと感じるのです。その結果、2016年香港の15歳から24歳の若者の失業率は10.3%となっています。それと比べ、2016年日本の15歳から24歳の若者の失業率は5.1%となっています。両者を比較すると日本の若者の失業率は香港より断然低いです。しかし、世界中では日本も香港も失業率が低く、どちらが良いかどちらが悪いのかは比較できないでしょう。

大学在学中に内定をもらい卒業後すぐ社会人になることができる新卒一括採用は確かに魅力的です。私は香港人として、このような制度が導入されたら香港の大学生も様々なことについて楽になるでしょう。しかし、自分の今後の人生を僅か1年で決めるのは果たして良いのでしょうか。また、グローバル社会になった現在、多様な人材を求めるために限定的な時期で募集するのは困難ではないでしょうか。とは言え、新卒一括採用は新卒者にチャンスを与えました。そのため、企業側であれ新卒者であれ新卒一括採用と通年採用の両方が共存するのは、お互いにチャンスを与えることかできることになるでしょう。

経営学部 経営学科
文 郷美 (ムンヒャンミ)

こんにちは。韓国からきた文郷美 (ムンヒャンミ) と申します。

2012年4月、日本の経済やマーケティングについて学ぶために、韓国の高校から中部学院大学に入学しました。入学する前に、「せっかくの留学のチャンスだから、お金や時間を無駄にしないよう有益な大学生活を過ごそう」と決意し、早く日本に行きたいという期待で胸が一杯でした。

大学へ入学してから、韓国人留学生の先輩は誰もいないと分かって、「大学に適応できず、友達もできなかったらどうしよう」と非常に不安でした。しかし、大学の先生から一人の中国人留学生を紹介してもらい、彼女のおかげで新しい環境もすぐに馴染むことができました。今、彼女はかけがえの無い親友となりました。

日本での留学生活は、早くも2年間で過ぎました。この2年間に本当に色々なことがありました。関市役所の主催で開催された「外国人交流会」に参加し、多くの友人を作ることができました。また、本学の留学生遠足に参加し、京都の清水寺・金閣寺や三重県の伊勢神宮などを見学し、日本の素晴らしい伝統文化を自分の目で見たり、直接触れ合うことができました。

中でも私が一番印象に残っていることは、去年11月2日各務原キャンパスの大学祭「学びの森フェスティバル」に参加したことです。私たちのゼミは、小人数でチーム分けをしました。各チームで自分の店を作り、自慢の商品を販売しました。私たちのチームは、話し合った結果、手作りチヂミとゆず茶を販売することになりました。商品の仕入れや販売方法などについて事前に話し合い、作る人と販売する人など細かい分担まで計画を立てました。みんなで協力して学びの森フェスティバルの準備をしました。そして、当日は料理を作る人、チヂミを売る人、それぞれ計画どおりに、スムーズに進みました。売り上げを少しでも上げるため、みんなで力を合わせて努力しました。経営学科で経営を学んでいる私たちは、店の企画から、製造、販売、利益分配まで一連の経営活動を計画的に実践しました。今回のことは、みんなにとっても初めての体験で不安な面もありましたが、とても楽しく、将来自分の会社経営に役に立つことと思います。

私の留学生活は、これまで経験しなかった新しいことが毎日のように起こっています。この中で、日本人の学生のみならず、中国の友達もたくさんできたということが何よりよかったです。残りの2年間も積極的に行動し、もっともっと日本のことを学び、後悔のない留学生活にしたいと思います。

経営学部 経営学科
姜 人月（キョウニンゲツ）

日本に留学して、もう3年が経ちました。私の留学生活は、涙があり、喜びがあり、感動がありました。私は、この3年間で視野が広くなり、少し成長したように感じています。

日本へ来たばかりのとき、料理が苦手な私は大変でした。しかし今では、何れ国もの料理ができるほど上手になりました。単純で、幼稚で、頑固で、わがままな私でしたが、大学生活で多くの人たちと接する中で、“責任”や“謙虚”という言葉の意味が理解できるようになりました。

日本に来る前は、両親は「私が一人で海外生活を送ることができるか、苦しくて途中で帰国するのではないかと心配してくれました。その時は私も、大学を卒業できるかどうか自信がありませんでした。しかし、今は違います。大学の先生方からの温かい支援により、いろいろな困難を乗り越えることができました。この3年間で苦労したことは、自分が成長するための“必修科目”であり、社会へ踏み出すための“道”であると思えるようになりました。私を支えてくれた中国や日本の友人にも感謝しています。また、日本での収穫は、多くの国の人や異文化に接し、自分の古い価値観を変えることができたことです。なぜ両親は私を留学させたのか、理由がようやく理解できるようになりました。留学のチャンスを与えてくれた両親に心から感謝しています。

さて、大学の授業は全部日本語で行われるため日本語力が要求されます。授業中しっかりノートをとれば、試験はだいたい合格できますが、良い成績をとろうと思うとそんなに簡単ではありません。私の大学でも、留学生の日本語力をとても重視しています。日本語能力試験N1に合格すれば、4単位と奨学金10万円がもらえます。まだ、N1を取得していない私は、卒業するまでに合格するよう頑張りたいと思います。また、暇な時は、中国の友達と一緒に旅行をします。日本の伝統文化の発祥地奈良、アジアファッションを牽引する東京、商業の盛んな大阪、古い都京都など色々なところに行きました。日本に来る前は、日本と中国とそんなに変わらないと思っていました。しかし、日本で生活してみると、二つの国あるいは二つの民族は類似しているところもありますが、異なるところも多いと思います。例えば、世界中で日本と中国は唯一漢字を使う国であり、発音が違いますが、意味の通じる言葉もたくさんあります。逆に同じ漢字を使っているのに、意味がぜんぜん違う場合もあります。特に、ニュアンスで感じる単語や言い回しなど、日本に来ないと分かりにくいところが多くあります。他にも、日本では、昨日と同じ服を着ると不衛生に思われます。歩きながら食べる人はいませんし、痰を吐いたり、むやみにゴミを捨てる人もいません。年をとればとるほど化粧が濃くなり、いくつの方なのか見分けがつかません。夫婦が異なる宗教を信仰しても許されます。和尚さんでも結婚できるし、子どもも産めます。学校やアルバイト先では先輩を尊敬し、従うことが当然のようなどころもあります。

このように、日本は東西の文化をうまく融合して、独特な魅力ある文化を創り出しています。自分自身で体験すればその魅力を感じることができます。また、異なる国で留学体験をすることにより自分を大きく成長させることができると思います。留学生活は大きな喜びと意外な収穫があります。